

笑顔集う夢空間

05年日本国際博覧会(愛知万博)愛称「愛・地球博」の「愛・地球広場」で繰り広げられる催しや企画が25日発表された。世界各国の人々が集い、一日中「愛」を分かちあう「愛地球博」博覧会が運営し、「メディア朝日」(朝日新聞社、テレビ朝日)朝日放送、名古屋テレビ放送などが協賛する。最先端の映像、通信、放送設備や新聞といったメディアが融合し、「地球大交流」の舞台を支える。

1500万人の地球大交流

メディア朝日など協賛

メイン入場口の北ゲートから入り、空中回廊「グローバル・ループ」の上から南に目をやる。そこが目の前の大画面に大写しに。さらに、その笑顔が掲載された世界で一部しか個人向け入場券のほとんど全員が目にする場所。広さは約1万4千平方メートル、中央の人工芝部分には約3千人が座ることができる。周囲には、総合案内所や休憩施設も設ける。

広場のテーマは「ザ・ワールド・オブ・ワン・ワールド」。万博協会は「イベント広場」ではなく「コミュニケーション広場」と位置づけている。

広場の正面には、横20メートル、高さ25メートルの緑の塔と本。塔付きのステージでは、公式参加国のナショナルイベントやコンサートが日々繰り広げられる。

万博協会は、この広場でシンボル企画「メリーエクスポート」を展開する。

メリーは「しあわせなとき」。「陽気な」という意味だ。大震災やテロから立ち直る人々の笑顔の写真を有名水谷孝次さん(53)が20カ国を回り、約5千人の笑顔を集めて、エクスポートとして紹介する。

会場に集まった人たちの笑顔も登場する。携帯電話から送った自分や家族の笑顔写真とメッシュが目の前の大画面に大写しに。さらに、その笑顔が掲載された世界で一部しか個人向け入場券のほとんど全員が目にする場所。広さは約1万4千平方メートル、中央の人工芝部分には約3千人が座ることができる。周囲には、総合案内所や休憩施設も設ける。

連日、アーティスト石井竜也さんが総合プロデュースする奇くみる人形劇「精霊たちの森林舞踏会」を上演。

ほかにも、各国の人々が参加する「地球大交流」を体感できるような企画が練られていく。



ルーマニア北部のウクライナ国境に近い山間の村。とがった塔のある小さな木造教会が見える。庭でニワトリを追う少女に、母親を手伝って日曜のこごそろロールキャベツをつくる少女。映像はそこに出る暮らしの豊かさを映し出

「地球に吹く風」に登場するルーマニアの姉妹「ルー」マニア北部のボティサ村で

「地球に吹く風」

メディア朝日

子どもたちの夢描く

「メディア朝日」が愛・地球広場の大型映像装置「エクスポジション」で放映する「地球に吹く風」世界から広場へ」の一場面だ。中国の伝統芸能・京劇に生きる子どもたちや、北米の極寒の大地で暮らすアイヌの子どもたち……。いま世界各地で撮影が続いており、5大陸で計十数

本を制作。1日に数本上映する。少年・少女たちの暮らしや夢を、彼らをとりまく美しい自然とともに、高画質の映像で万博会場に届ける。世界の多様性を知り、共有できる価値観を探すねらいだ。

世界を舞台に活躍する各国の著名人から愛知万博に託す「万博メッセージ」も紹介する。



愛・地球広場を北から見たイメージ図

マイペーパー

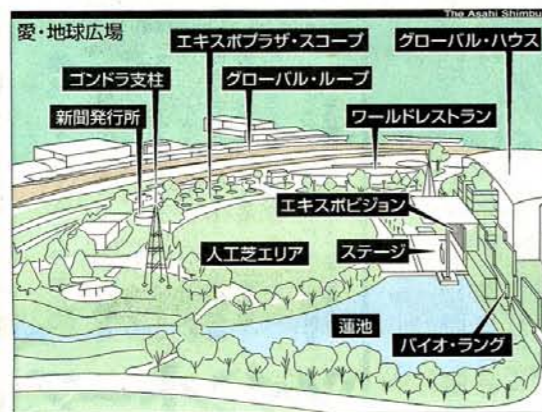
朝日新聞社が愛・地球広場の新聞発行所で製作する「マイペーパー」は、来場者の笑顔とメッシュが掲載された新聞だ。その日のニュースや会場の話題を載せるため、どんな日に万博を見に来たのかわかる記念新聞にもなる。

笑顔の写真は、万博協会がドコモの協力で携帯電話から受け付け、採用が決まると、アクセスI

朝日新聞社

紙は、バナナの繊維で作ったバナナペーパーを使う。実を取った後に捨てている茎を利用する。発展途上の貧しいバナナ産地の雇用を生み出し、経済的自立を助ける。温室効果ガスを吸収する森林を守る活動の一環。日本のNPO法人が普及に取り組んでいる。

朝日新聞の新聞発行所は、万博会場の内外を結ぶ情報拠点をめざす。



エクスポプラザ・スコープ NTTドコモ・ドコモ東海



のぞけば立体映像次々

マンモスが広場にいる人々の間をのし歩き、池には巨大クジラが浮上して潮を噴き上げる。NTTドコモとドコモ東海が企画する双眼鏡「エクスポプラザ・スコープ」で見ると、信じられない光景が次々に現れる。

スコープは広場を見渡す一角に5機設置する。あらかじめ仕込んだ立体映像を、現実の背景に合わせて映し出す仕組みだ。照準を合わせれば、体長や生態情報も表示。

ほかにも、種類の生き物が登場する予定だ。スコープの使用時間は1回約3分。行列も予想されるため、待ち時間に映像と音による説明を流しめるよう工夫する。

スコープの頭上にある雲をかたどったオブジェは、暗くすると6色に発光し広場を彩る。

ドコモのコンセプトは「未来のモバイル通信」。このパッチャル映像の技術を開発させ、通話中の相手の姿を立体的に映し出したり、都市や観光名所の情報案内を表示したりする新しいモバイル通信をめざすという。

カメラ付き携帯電話は、「メガネ付き携帯電話」が登場しそうだ。

エクスポジション 松下電器産業

愛・地球広場に設置される松下電器産業の大型映像装置「エクスポジション」は、屋外では国内最大級となる840インチ画面で、幅20メートル、縦8メートル。「メリーエクスポート」企画などで集めた世界や来場者の笑顔も高画質で上映する。

従来より小さくて明るい発光ダイオード(LED)を使い、明るく鮮明な画像を実現した。その画質を生かし、日本の自然の変化を季節の移ろいととも紹介する「二十四節気」などの映像が、くつろぎの時間を演出する。

松下の企画では、世界の小中学生による「環境」や「交流」をテーマにした映像作品や、動物が主人公となった地球環境を守るミュージカル「動物たちの約束」も上映する。

万博協会は、広場の中継に工夫を凝らす。走り出した人の後ろに残影を映し出す「エクスペリエンス(体験)」という企画だ。

実写映像と立体的なコンピューター画像を合成する最新の画像処理も使う予定。大画面を見ると、後ろから万博マスコットのモリゾーやキッコロが追いかけてくる。こんな演出を検討している。



「愛・地球広場」には、松下電器産業、NTTドコモ・ドコモ東海と、朝日新聞社・テレビ朝日・朝日放送・名古屋テレビ放送でつくる「メディア朝日」がオフィシャルパートナーとして協賛する。